

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

デイリー・ジーザス・ニュース #301

木曜日...指導と逮捕の日：

「大祭司の祈り」を捧げる

イエスはゲッセマネで二度目と三度目の祈りを捧げる

マルコ14.37-42 (並行聖書：マタイ26.40-46、ルカ22.45-46)

イエスは祈りを終えて立ち上がり、弟子たちのところに戻ると、彼らは眠っており、イエスは悲しみに疲れ果てていました。

「なぜ眠っているのですか？」とイエスは彼らに言われた。「シモン」とイエスはペテロに言われた。」眠っているのか？^{MT}君たち^Mは監視しない^{MT}と一緒に1時間^Mですか？³⁸Lわたしはあなたに命じます。「立ち上がり、目を覚まして祈り続けなさい。そうすれば誘惑に陥ることはあります。心は燃えているのに、肉体は弱いのです。」

39^Mもう一度、^{MT}二度目に、^M彼は立ち去って、同じことを祈った。

MT「父よ、この杯を飲まなければ取り去ることができないのであれば、あなたの御心が行われますように。」

40イエスが戻って来られると、彼らはまた眠っていました。目が重くて、イエスに何と言ってよいか分からなかったからです。そこでイエスは彼らを残して、もう一度立ち去り、三度目に同じことを言って祈られました。

41イエスは三度目に帰って来て、彼らに言われた。「まだ眠っているのか、休んでいるのか。もう十分だ。時が来た。見よ、人の子は罪人たちの手に引き渡される。⁴²立ち上れ！行くぞ！裏切り者が来たぞ！」

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルカ =^L、ヨハネ =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字

が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	オリーブ山のゲッセマネの園
タイムライン	4月上旬（39ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	D. 木曜日：指導と逮捕の日
	イエスは大祭司としての祈りを捧げる
タイトル	イエスはゲッセマネで二度目と三度目の祈りを捧げる

今日の朗読では、弟子たちがストレスと悲しみに疲れ果てて眠りにつく間、イエスは二度目、三度目の苦悶の祈りを続けました。イエスが言われたように、彼らの肉体は確かに弱っていました。彼らは祈るには疲れすぎており、イエスよりもはるかにストレスが少なかったため、私たちは主がこれらの時間にどれほどの苦しみを感じ、父と二人きりで祈りの時間をどれほど大切にしていたかを理解することができます。主は私たちの完璧な模範です。

イエスが取り去って欲しいと祈った「杯」とは何だったのでしょうか。詩篇75章7-8節をご覧ください。

「神は裁き主である。神はある者を低くし、ある者を高める。
主の手には杯があり、酒が泡立っているからだ。
よく混ぜたら、ここから注ぎ出します。
確かに、地上のすべての悪人はその津を飲み干さなければならない。」（NASV）

旧約聖書には、神の怒りの「杯」、つまり罪への対抗について、他にも多くの記述があります。神は「罪の報いは死である」と定められました。人が人生で最初の罪を犯した瞬間、私たちは死の裁きを受けることになります。「地の悪人は皆、その津を飲み干さなければならない。」

イエスは私たちの代わりに、義なる者が不義なる者に代わって裁きの「杯」を飲むことに同意されました。これが、イエスが私たちの救い主としてこの地上に来られた目的でした。それが意味する恐ろしさが迫ってくるにつれ、イエスはそれが本当に父なる神の御心であるかどうかを確かめる必要がありました。

イエスは、神の子としての聖性と清純さを損なうような言動を一度も選ばなかった。全生涯を捧げて守り、育んできたものを放棄するのは正しいことだったのだろうか。イエスは軽々しく私たちのために罪となることはできなかった。これは本当に父なる神の喜びだったのだろうか。

イエスの祈りに対する父なる神の答えは、イエスの生涯を通して明らかにされた最も重要な真理の一つです。父なる神はイエスに、本質的にこう言われました。「世の罪が取り除かれるには、あなたが“それらの代価として死ぬ以外に方法はない。」

イエスは、全能の父なる神にはどんなことも可能であることを認めておられました。しかし、死の裁きを執行することなく罪を赦すことは道徳的に不可能でした。さもなければ、神は偽り者となり、神の定めは信頼できないものになってしまふでしょう。罪は裁きを必要とします。罪人たちが自ら代価を払うか、イエスが彼らに代わって代価を払われるかのどちらかです。いずれにせよ、すべての罪は裁かれなければなりません。

ゲッセマネの園で神の口から発せられたメッセージは、全能の神が私たちの罪に対処するには、裁き以外に方法はないということです。神の義は神の裁きを要求します。神の慈悲と愛は、御子を私たちの身代わりの代償として与えてくださいました。私たちの赦しは、御子の代償を必要としました。他に方法はあり得なかつたのです。

イエスは、私たちのために罪となることが父なる神の完璧な計画であるという確信のもと、新たに力づけられ、ゲッセマネを去り、十字架に立ち向かいました。イエスはご自身の義を捨て、罪人として裁かれることも厭いませんでした。実際、ご自身の義を犠牲にすることこそが、唯一「正しい」ことだったのです。なぜなら、それは当時の状況において最も愛に満ちた行為だからです。イエスは十字架を受け入れる覚悟ができていました。私たちの赦しを得るには、その杯を飲む以外に道はなかつたのです。

この朗読は、受難週の木曜日に関する福音書の記述を締めくくるものです。デイリー・ジーザス・ニュースの24回の投稿は、この日の夕方から真夜中までのわずか6、7時間分を扱っています。イエスが祈りの中で過ごした最後の数時間は、私たちの贖罪をもたらした十字架の苦しみに立ち向かうための備えでした。

応用：

許しは安くはありません。クリスを犠牲にして私たちが許したことは、宇宙の歴史上、最も高価なものでした。これに匹敵するものは他にありません。

私たちは常に赦しを必要とし、しかも繰り返し赦しを受けているため、赦しの代償に鈍感になります。ゲッセマネは、イエスが私たちを赦すために払われた代償を思い起こさせるはずです。イエスは「**赦されることの少ない者は、愛することも少ない**」（ルカ7:48）と言われました。イエスの死は、私たちが確かに赦されていることを示しています。

あなたは許しを当然のこととして捉えたことがありますか？

ゲッセマネでのイエスの祈りは、その態度を変えるのにどのように役立つでしょうか。